

乙 第 号

廣田 直也 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	粕田 承吾
論文審査担当者	委員	教授	今村 知明
	委員(指導教員)	教授	岸本 年史

### 主論文

奈良県立医科大学精神医療センターにおける隔離・身体拘束の実態調査

廣田 直也, 紀本 創兵, 岸本 直子, 西 佑記, 本多 将人, 井上 慶一,  
永野 龍司, 盛本 翼, 岸本 年史

精神科 37 卷 4 号 Page440-447 (2020.10)

## 論文審査の要旨

本研究は、精神医療センターにおいて行動制限が実施されていた入院患者を解析の対象とし、隔離、身体拘束の施行量の推移、行動制限を受けた患者特性を調査したもので、本研究により行動制限施行数は増加傾向にあることがわかり、行動制限施行時間は諸外国と比較しても明らかに長いことを指摘している。また、F2（統合失調症圏）の患者では行動制限日数と BPRS 総得点が相関関係を示すなど、興味深い実態が明らかにされている。

公聴会では、現在の身体拘束の基準は非常に厳しいものであると理解しているが、実際に臨床の現場ではあのような厳しい基準を満たした形で身体拘束が行われているのかとの問いに対して、基準は遵守されているとの回答があった。また、F0が増えたために身体拘束が増えたとのことだが、これは高齢化が進んだ結果として数が増えているだけかとの質問に対し、平均年齢は変化しているため数だけの影響ではないとの説明があった。また、諸外国での行動制限時間が日本に比して短い理由はとの問いに対し、日本特有の現場の努力では回避しきれない医療構造上の問題を指摘した。いかにすれば行動制限を減らせるかの質問に対しては、教育と理解、スキル向上、多職種カンファレンス、地域連携、人員配置について答え、適切な回答を得られた。

本研究の結果は有用なものであり、今後本領域のさらなる発展に寄与するものと評価される。

以上より、主論文の内容と公聴会での質疑、および参考論文と合わせて、審査委員すべてが適と判断し、博士（医学）の学位に値する研究であると考えます。

## 参 考 論 文

1. Aripiprazole への切り替えで錐体外路症状が軽減した思春期発症統合失調症の1例

今井秀記, 廣田直也, 前川忠廣, 佐竹暁, 横井正, 篠原朝美, 亀井聖史, 熊宏美, 西山志歩, 古川秋夫, 池田操, 石原さやか, 高橋正彦, 新野秀人, 中村祐

精神科 13 卷 6 号 Page513-516(2008.12)

2. 東大阪市立総合病院精神科における新患調査 —エコグラムと診断との関連を中心に—

橋本和典, 太田豊作, 廣田直也, 上村秀樹, 森川将行, 岸本年史

奈良医学雑誌 58 卷 2・3 号 Page75-81(2007.06)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに精神医学行動神経科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年3月9日

学位審査委員長

法医学

教授 粕田 承吾

学位審査委員

公衆衛生学

教授 今村 知明

学位審査委員(指導教員)

精神医学行動神経科学

教授 岸本 年史